

まほらいな市民大学の様子

令和5年6月4日（日）

郷土芸能シリーズ 中川人形浄瑠璃 公演

『三番叟・日高川入相花王一渡し場の段一』

中川人形浄瑠璃保存会 代表 下平 達朗 氏



今回の郷土芸能シリーズは、中川人形保存会の皆さんによる公演でした。

中川人形浄瑠璃は、昭和37年を最後に活動が途絶えていました。最終公演から50年を機に平成24年から復活の活動が始まり、公民館講座を経て中川人形保存会が発足。今田人形座の指導を受け、今までに9回の定期公演をおこなっています。

はじめに、中川村公民館長から『中川人形浄瑠璃の歴史と復興への歩み』の話がありました。そして『三番叟』の公演が始まりました。人形のきらびやかな衣装と気品ある表情、見事な舞の披露がありました。そして「三味線」「太夫」「人形遣い」それぞれの解説があり、その後『日高川入相花王一渡し場の段一』が演じられました。細かな人形の動きと感情表現が一体となり、人形遣い3人の息の合った動き、太夫の語りと三味線の繊細かつ迫力のある演奏で、三位一体となり人形がまるで生きているかのように感じました。安珍と清姫の悲恋の話の最後は、清姫が突然鬼に変わり、川へ身を投げると大蛇に姿を変えるとといった迫力のある熱演に観衆は魅了されました。

学生からは、「初めて人形浄瑠璃を見て感動し、見入ってしまいました。人形を3人で動かすのは大変ですが、美しく素晴らしい動きでした。」「太夫は低い声から娘の声まで演じ、三味線が浄瑠璃にとっても合っていて、皆がとても上手で感心しました。」「伝統芸能が地域に根ざして受け継がれることは貴重だと感じました。人形浄瑠璃を復活させた苦労が偲ばれます。」「といった感想がありました。